



◆ 第13回年次大会（東京大会）を開催致しました（御礼）

2024年8月24日（土）・25日（日）に開催されました日本デジタル教科書学会第13回年次大会（東京大会）には、延べ200名の皆様にご参加いただき、また、33件の貴重な研究発表をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

今回の大会では、「ネクストGIGAに向けた、DataとAIの活用」をテーマに掲げ、教育のデジタル化に関する最新の動向や未来への展望を深く掘り下げる機会となりました。1日目の基調講演では、日本テラデータ株式会社の金井啓一様により、「あらゆる業種で進むデータ活用最前線～経験頼みから脱却し、業務を創造的・生産的にするためにはどうするか？」と題したご講演をいただき、教育だけでなく、様々な分野におけるデータ活用の重要性を学びました。

また、2日目には、放送大学の中川一史様による「デジタル教科書の動向と展望」に関する特別講演を実施し、デジタル教科書の今後の発展や実際の教育現場での活用可能性について深い洞察を共有いただきました。その後、本学会の小林祐紀理事（放送大学）のコーディネートで、「デジタル教科書活用の追究～外国語と国語を核にして～」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。パネリストには、東京家政大学の太田洋様、放送大学の佐藤幸江様をお招きし、国語と外国語教育におけるデジタル教科書の効果的な活用方法について、現場の実践事例を交えた具体的な議論が行われました。

さらに、33件に及ぶ研究発表では、生成AIやデジタル教科書を活用した学習支援の実践事例、ICTを活用した外国語教育の進展、特別支援教育におけるICT利活用など、幅広いテーマが取り上げられました。これらの発表を通じて、デジタル技術が教育にもたらす多様な可能性や、DataとAIの活用が教育現場にどのように具体化されるかについて、参加者は多くの示唆を得ることができました。

大会を通じて、教育現場におけるデジタル教科書をはじめとするICTの利活用が、今後の学習環境の質的向上に寄与することを確信いたしました。これらの議論が、日本の教育の未来に大きな影響を与えることを期待しております。

最後に、ご参加いただいた全ての皆様、そして貴重な講演とディスカッションをしてくださいました皆様に深く御礼申し上げます。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本デジタル教科書学会 第13回年次大会 大会実行委員長 真下 峯子
日本デジタル教科書学会 会長 広瀬 一弥

◆ 第13回年次大会（東京大会）において若手優秀賞、若手奨励賞を授与いたしました

本大会における若手優秀賞は、小内慶太氏（宮代町立須賀小学校）「学習者が振り返りに取り組む際に参考にする支援の特徴—小学校国語学習者用デジタル教科書を活用した第5学年の事例研究—」でした。また、若手奨励賞は、植田拓人氏（丸亀市立飯山北小学校）「学習者の気づき・イメージ獲得につながる支援としての生成AI活用 ～小学校での事例をもとに～」と、浦部文也氏（横浜市立荏子田小学校，放送大学大学院）「小学校国語学習者用デジタル教科書を活用した説明的文章の個別活動場面の学習過程に関する一考察」の2件でした。どれもこれからの教育の在り方等を考える上で、貴重な研究であり、大変レベルの高いものでした。



（左より、植田氏、小内氏、浦部氏）

これらの賞は、35歳以下の筆頭者を対象に、特に優れた研究を行った方に対して贈られるものです。今回、候補として7名がエントリーされ、5名の審査員により、著者名・所属・付記等を除いた予稿により「新規性」「論理性」「有用性」「将来性」の4観点を基に選考を進め、上位3名を選出し、3名の皆様からは大会当日に若手優秀賞受賞候補発表をしていただき、その内容を基に再度4名の審査員により総合的に審査を進め、賞を決定しました。

【若手優秀賞】

受賞者：小内慶太氏（宮代町立須賀小学校）

学習者が振り返りに取り組む際に参考にする支援の特徴—小学校国語学習者用デジタル教科書を活用した第5学年の事例研究—

（共著者：小林祐紀氏（放送大学）岩崎啓子氏（茨城県立竹園高校）北濱康裕氏

（加賀市立片山津中学校）白土瑞樹氏（水戸市立下大野小学校）

西岡遼氏（ひたちなか市立佐野中学校）中川一史氏（放送大学））

【若手奨励賞】

受賞者：植田拓人氏（丸亀市立飯山北小学校）

学習者の気づき・イメージ獲得につながる支援としての生成AI活用 ～小学校での事例をもとに～

受賞者：浦部文也氏（横浜市立荏子田小学校，放送大学大学院）

小学校国語学習者用デジタル教科書を活用した説明的文章の個別活動場面の学習過程に関する一考察

（共著者：佐藤幸江氏（放送大学）鷹野昌秋氏（武蔵村山市立第七小学校）森下耕治氏（光村図書出版株式会社）中川一史氏（放送大学））

◆ 第14回年次大会（愛知大会）の開催について

2025年の日本デジタル教科書学会(JSDT)年次大会（愛知大会）を、瀬戸S O L A N学園（愛知県瀬戸市）にて開催予定です。日程は8月下旬を予定しております。

◆ 学会誌「日本デジタル教科書研究」への投稿募集

デジタル教科書研究の投稿論文を随時募集しています。一般論文、展望論文、実践論文の3つのカテゴリーがありますが、実践論文を積極的に評価しています。原著論文ほどの厳密さがなくても、実験段階の理論を実践的に応用した研究、新しいアイデアの実践的検証等を報告論文として積極的に評価します。もちろんアカデミックな一般論文、展望論文も歓迎します。

デジタル教科書研究の詳細については、学会ウェブサイトをご覧ください。

<https://js-dt.jp/2013/12/3354/>

論文の投稿、お待ちしております。

デジタル教科書学会編集委員長 山口大輔（流通経済大学附属柏中学校）

◆ 実践研究論文化支援プロジェクトの参加者募集

「実践研究論文化支援プロジェクト」の参加者も募集しています。優れた実践が多数あると思いますが、実践者は必ずしも実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家ではないため、「学術研究として実践を公開して貢献したいが、論文執筆の方法がわからない」という方もいらっしゃると思います。

そこで、実践者から優れた実践を公募し、実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、査読論文としての公開を支援するプロジェクトを実施しています。随時募集しています。相談だけでも結構です。知の蓄積に貢献しませんか？

詳細はウェブサイトをご覧ください。

https://js-dt.jp/supprt_project-2/

実践研究論文化支援プロジェクトへのお申し込み、お待ちしております。

デジタル教科書学会研究委員長 稲田健実（福島県立相馬支援学校）

◆ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/research_support/) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

◆ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に、研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます。)

(http://js-dt.jp/seminar_support/)

◆ 2024年の体制について

2024年8月25日の総会において報告されました2024年度の体制について、ご報告をさせていただきます。

【会長】

広瀬 一弥 (亀岡市みらい教育リサーチセンター)

【副会長】 (50音順)

稲田 健実 (福島県立相馬支援学校) (広報・組織担当)

片山 敏郎 (新潟市立大野小学校) (研究・編集担当)

坂田 陽子 (愛知淑徳大学)

【研究委員会】

委員長

稲田 健実 (福島県立相馬支援学校)

副委員長

佐藤 和紀（信州大学教育学部）

委員（50音順）

岩山 直樹（富山大学人間発達科学部附属小学校）

竹中 章勝（金城学院大学 桃山学院大学）

島田 英昭（信州大学学術研究院教育学系）

【編集委員会】

委員長

山口 大輔（流通経済大学付属柏中学校）

副委員長

長谷川 春生（富山大学大学院）

委員（50音順）

小林 祐紀（広報委員長兼任、放送大学）

蔵富 恵（岐阜聖徳学園大学）

【広報委員会】

委員長

小林 祐紀（放送大学）

委員（50音順）

一戸 信哉（敬和学園大学）

加藤 悦雄（昭和女子大学附属中学高等学校）

工藤 豪（昭和女子大学附属昭和小学校）

反田 任（瀬戸 SOLAN 学園）

水越 綾（杉野服飾大学）

【事務局】

事務局長

久富 望（京都大学教育学研究科）

副事務局長

杉山 一郎（十日町市立馬場小学校 教頭）

事務局員

上田 昌史（一般財団法人マルチメディア振興センター）

【監事】

監事

反田 任（瀬戸 SOLAN 学園）

林 俊行（新潟市立亀田東小学校）

【顧問】

顧問

岩居 弘樹（大阪大学）

【ICT CONNECT 21 担当】

担当理事 高瀬 浩之（東京都立南葛飾高等学校 教諭）

【大会実行委員会】

委員長

反田 任（瀬戸 SOLAN 学園）

◆ ● 会員の声 Vol.2（金城学院大学 桃山学院大学 竹中章勝）

現学習指導要領総則において学習の基盤となる資質能力として、言語力、情報活用能力（情報モラル含む）問題発見解決能力が挙げられ、情報活用能力の育成が重要な課題になりました。

デジタル教科書も検定教科書に関わるデジタル教科書の開発や、広義でのデジタル教材や学習支援システムの整備などが着実に進んできました。これからのデジタル教科書等の教育環境を活用した授業実践を行なわれている先生方が多く参加されていることが本学会の最大の特徴であり強みであると思います。

また、将来教員を目指す学生のみなさんが履修する教職課程では、「情報活用および情報通信ネットワーク活用に関する単位」が必修となり私もその講義を担当させていただいています。またここ数年は ICT 活用に関する教員研修も府県単位や市町村単位での研修が実施されることも増えており先生方の努力により学校における取り組みがさらに進んできており、GIGA 端末の活用など教育 DX も進んできており、さらに本学会での知見の共有は日本全体の教育において期待されていくことと思います。

私自身は中学校・高等学校の教員経験をもとに、現在は文部科学省 DX 戦略アドバイザーや教育委員会の ICT アドバイザとして環境構築と授業デザイン・実践について「教育 DX」について教育委員会や先生方とこれからの学びについて微力ながら関わらせていただきたいと思います。

